TRADITIONAL CRAFTS OF JAPAN

日本の伝統工芸を知る、学ぶ、楽しむ。

伝統的工芸品を巡るイベント『JAPAN TRADITIONAL CRAFTS WEEK 2021』が、10月29日から11月11日まで開催。
日本各地の熟練職人が代々伝えてきた、真摯で精緻な仕事の数々を誌面でも紹介します。

左上から時計回りに／越前漆器の応量器32、越前漆器の欅 利休汁椀16、伊万里・有田焼のK黒C釉 鎬ボール37、江戸切子の竹編みオールドグラスとシンプリーアーク猪口1、小石原焼の７寸皿36、小代焼の青小代釉 月面平鉢9。丸数字はp.104〜の取り扱いショップの番号となります。

photo : Satoshi Yamaguchi illustration : Junichi Koka edit & text : Wakako Miyake

TRADITIONAL CRAFTS OF JAPAN

伝統的工芸品と、その産地を知る。

現在、国が指定した伝統的工芸品は全国236品目にも及ぶ。
その中からイベントに参加する38店舗が選んだ、38の産地を紹介。
日用品として発展してきた工芸品の数々は現代の生活にも寄り添ってくれる。

輪島塗 石川

輪島塗のもっとも古い記録は室町時代に作られた朱塗扉だが、遺跡調査が進むにつれ、さらに古い時代に遡るともいわれる。江戸時代には、堅牢な漆器として全国の農家や商人の家で日常的に使われていた。 3

山中漆器 石川

16世紀後半に材料を求めて移住してきた職人集団がろくろ挽きを始め、山中温泉付近に定着。江戸中期には椀や盆などの日用品のほか、土産用の遊び道具なども製作。温泉の発展とともに漆器も全国に流通していった。 7

飛騨春慶 岐阜

江戸時代初頭に大工の棟梁が、打ち割ったサワラの美しい木目を発見。そこから木肌を生かした透き漆の刷毛塗りを特徴とした飛騨春慶が誕生。色調が茶器の名品、加藤景正の「飛春慶」に似ていることからこの名称に。 2

三州鬼瓦工芸品 愛知

18世紀初頭から生産が活発化。釉薬をかけず、焼成後の高温状態のときに酸素を遮断することで「いぶし銀」と呼ばれる発色に。魔除けなどのため屋根を飾っていた鬼瓦は、昨今ではインテリアにも活用されている。 13

江戸べっ甲 東京

ウミガメの一種、タイマイの甲羅がべっ甲の主な原料。江戸開幕の頃は、甲羅に単純な細工を施しただけのものだったが、元禄期（1688〜1704年）に貼り合わせの技法が登場したことで、より複雑な造形が可能になった。 27

信州紬 長野

起源は奈良時代の「あしぎぬ」にまで遡る。江戸時代初期に信州の各藩が奨励して養蚕が盛んに。信州全域が織物の産地として栄えた。貴重な天蚕糸である山繭100%で作った山繭紬は、ここの特産品。 21

駿河竹千筋細工 静岡

江戸時代初期、主に武士の内職として始まる。19世紀中頃に岡崎藩士が静岡に立ち寄った際、宿の息子・清水猪兵衛に技術を伝えた。猪兵衛が菓子器などを作って土産物にしたことをきっかけに、この地域が産地に。 13

越中和紙 富山

奈良時代に書かれた古文書に越中国紙についての記載があり、平安時代の『延喜式』にも和紙が納税作物として記されているなど、古い歴史を持つ。強靭なコウゾ紙は型染絵加工品としても人気が高い。 65

江戸指物 東京

指物とは部材と部材を合わせた組手を外側に見せず、金釘を使わずに組み立てた木工品のこと。江戸時代に幕府が全国から職人を呼び寄せ発展。質実剛健な江戸指物は、台東区を中心に今も多くの職人が活躍。 4

江戸切子 東京

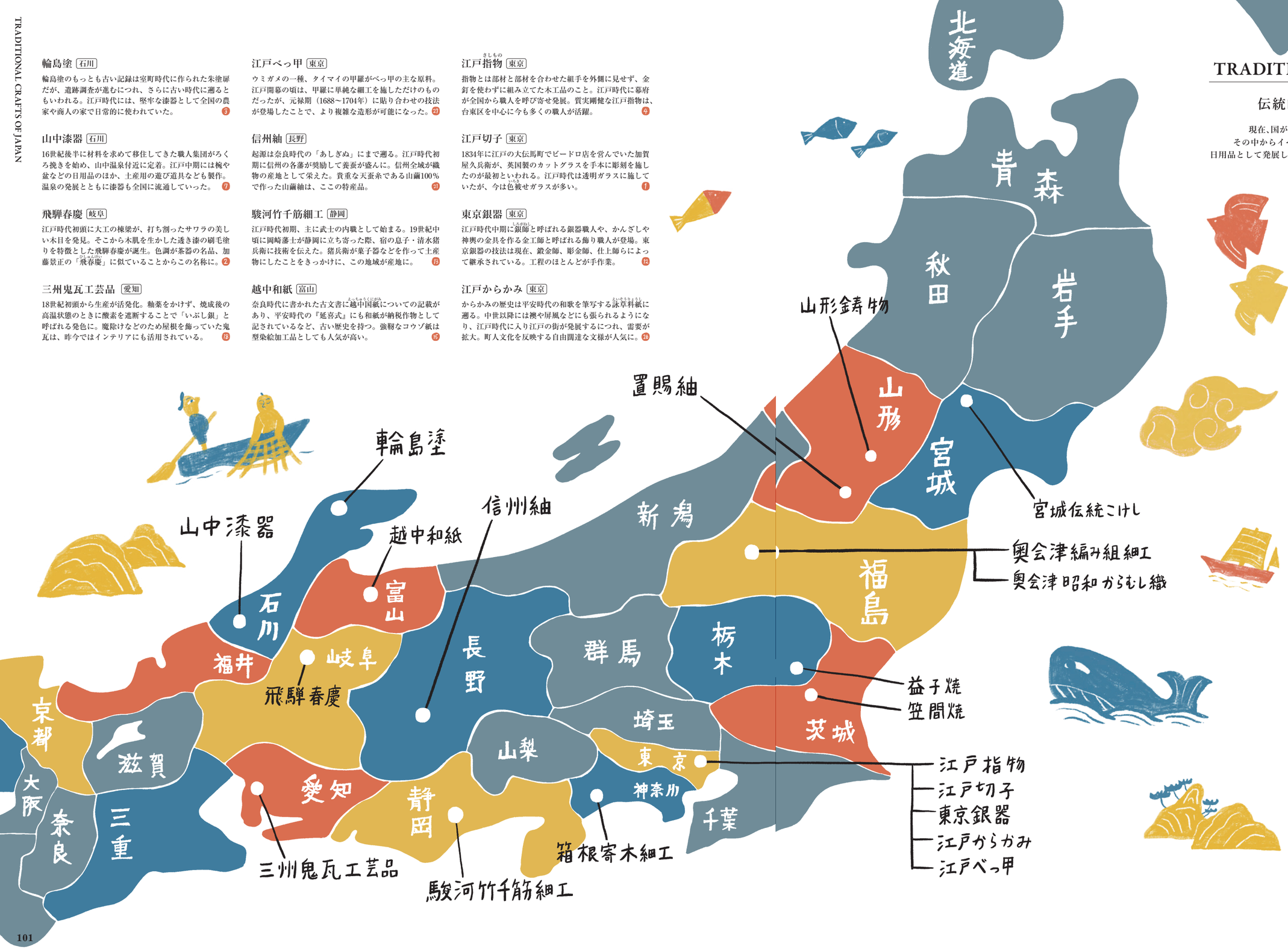
1834年に江戸の大伝馬町でビードロ店を営んでいた加賀屋久兵衛が、英国製のカットグラスを手本に彫刻を施したのが最初といわれる。江戸時代は透明ガラスに施していたが、今は色被せガラスが多い。 1

東京銀器 東京

江戸時代中期に銀師と呼ばれる銀器職人や、かんざしや神輿の金具を作る金工師と呼ばれる飾り職人が登場。東京銀器の技法は現在、鍛金師、彫金師、仕上師らによって継承されている。工程のほとんどが手作業。 12

江戸からかみ 東京

からかみの歴史は平安時代の和歌を筆写する詠草料紙に遡る。中世以降には襖や屏風などにも張られるようになり、江戸時代に入り江戸の街が発展するにつれ、需要が拡大。町人文化を反映する自由闊達な文様が人気に。 24



宮城伝統こけし 宮城

発祥は江戸時代中期以降。東北地方の温泉土産として誕生したといわれる。宮城県内には鳴子こけし、作並こけし、遠刈田こけし、弥治郎こけし、肘折こけしの５系統の伝統こけしがあり、それぞれ独自の特徴を継承。 11

山形鋳物 山形

平安時代後期、源頼義の軍に同行した鋳物職人が、山形市内を流れる馬見ヶ崎川の砂と千歳公園付近の土が鋳物に適していると、この地に残ったことが始まり。伝統とモダンが融合したプロダクツを生み出している。 17

置賜紬 山形

山形県南部の置賜地方に８世紀から伝わる織物。江戸時代初期に上杉景勝が奨励したことで産地として発展。白鷹板締小絣、米琉板締小絣、綿総絣、併用絣、紅花などで染色した草木染紬などを生産。 22

奥会津編み組細工 福島

福島県大沼郡では、縄文時代より生活の道具を作る編み組の技術・技法が存在していた。山ぶどう細工やマタタビ細工、ヒロロ細工によるカゴやバッグなどの生活用品として、現代にも高い技術で受け継がれている。 14

奥会津昭和からむし織 福島

からむしとは、苧麻とも呼ばれるイラクサ科の多年生植物。大沼郡昭和村では、からむしの栽培から糸紡ぎ、織りに至るまで、すべて手作業で行われている。吸湿・速乾性に優れた布は夏着物に最適。 14

益子焼 栃木

江戸時代晩期、茨城・笠間で修業した大塚啓三郎が築窯したのが始まりとされる。東京に近いこともあり、鉢や水瓶、土瓶などの日用品の産地として成熟。大正13年から益子で作家活動を始めた濱田庄司の影響も大きい。 20

笠間焼 茨城

江戸時代中期に箱田（現・笠間市内）の職人が、信楽焼の陶工に指導を受けて開窯。笠間藩の保護・奨励を得て、産地として形成された。以前はすり鉢など台所用品が主流だったが、現在は食器や花器などを生産。 2

箱根寄木細工 神奈川

江戸時代後期に箱根山の南部に位置する畑宿で誕生。当初は無垢作りによる乱寄木や単位文様の製品が作られていたが、明治時代初めに静岡地方の寄木技法がもたらされ、以来、連続文様構成の小寄木が主流に。 19 21

文末の丸数字はp.104〜の取り扱いショップの番号となります。

伊万里・有田焼 佐賀
豊臣秀吉と朝鮮に行った佐賀藩主が伴った現地の陶工・李参平（りさんぺい）が、有田泉山に陶石を発見し、誕生。この時に焼かれたものが日本最初の磁器といわれる。青一色の染付から鮮やかな上絵付まで様々な表現がある。 37

小代焼（しょうだいやき） 熊本
1632年に細川忠利が豊前国（九州北東部）から肥後国（現・熊本県）に転封。これに同行した陶工・源七と八左衛門が窯を開き、小代焼に。青小代、黄小代、白小代に代表される微妙な発色が特徴。 9

本場大島紬 鹿児島 宮崎
本場大島紬の歴史は７世紀に遡り、18世紀に産地が形成。シャリンバイの木から煮出した汁に浸けて干した絹糸を、鉄分を含む泥田で染める泥染め技法が有名。独特の深みがある黒褐色に染まる。 20

小石原焼 福岡
江戸時代前期に黒田藩藩主によって開かれた、筑前最初の窯。大型の甕や徳利などの磁器を焼いていたが、18世紀初めから陶器が焼かれるようになり、現在の名称に。刷毛目や飛び鉋など加飾に特徴がある。 5 28

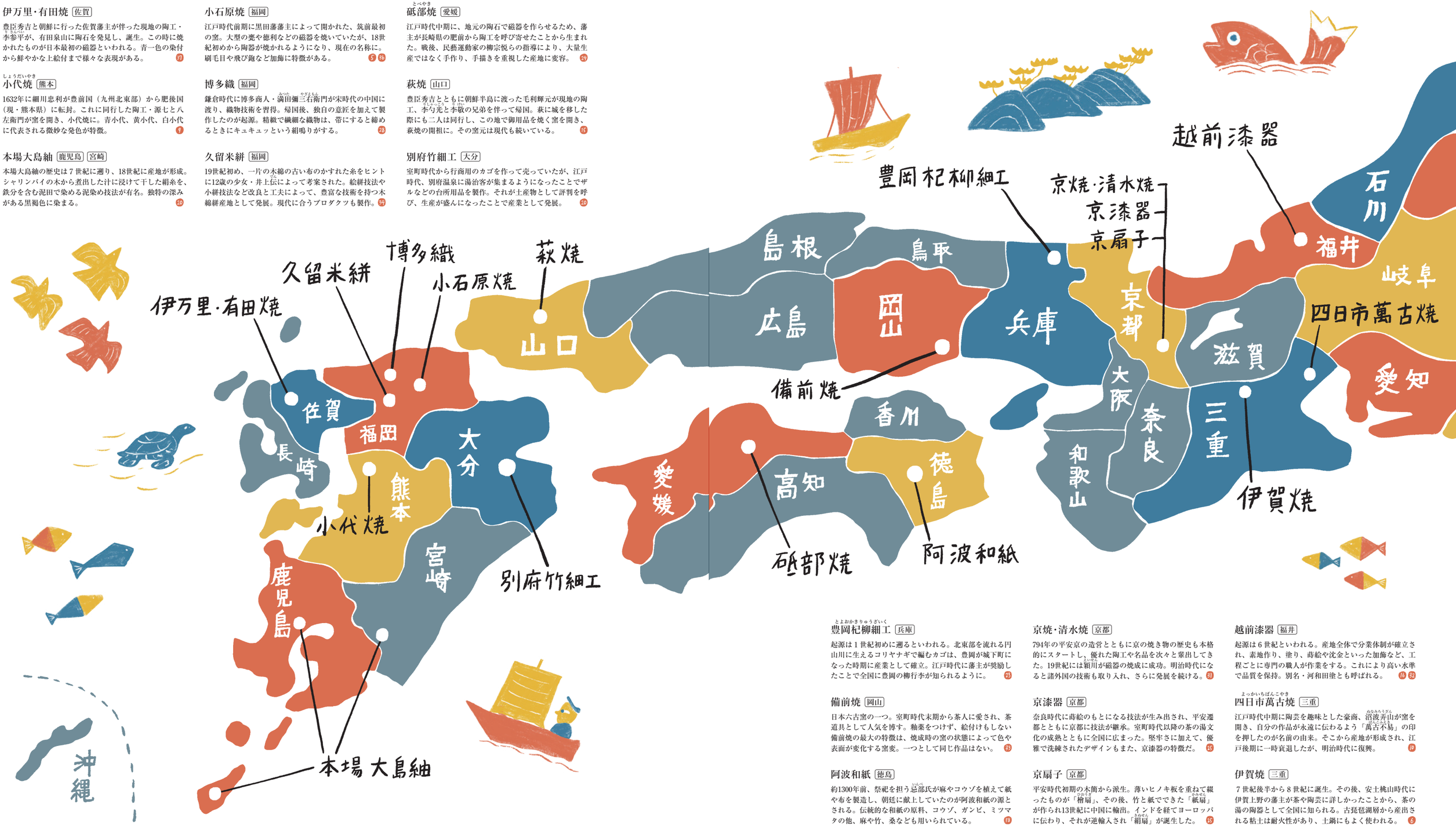
博多織（はかたおり） 福岡
鎌倉時代に博多商人・満田彌三右衛門（みつたやさうえもん）が宋時代の中国に渡り、織物技術を習得。帰国後、独自の意匠を加えて製作したのが起源。精緻で繊細な織物は、帯にすると締めるときにキュキュッという絹鳴りがする。 28

久留米絣（くるめがすり） 福岡
19世紀初め、一片の木綿の古い布のかすれた糸をヒントに12歳の少女・井上伝（でん）によって考案された。絵絣技法や小絣技法など改良と工夫によって、豊富な技術を持つ木綿絣産地として発展。現代に合うプロダクツも製作。 34

砥部焼（とべやき） 愛媛
江戸時代中期に、地元の陶石で磁器を作らせるため、藩主が長崎県の肥前から陶工を呼び寄せたことから生まれた。戦後、民藝運動家の柳宗悦らの指導により、大量生産ではなく手作り、手描きを重視した産地に変容。 29

萩焼 山口
豊臣秀吉とともに朝鮮半島に渡った毛利輝元が現地の陶工、李勺光（しゃくこう）と李敬（けい）の兄弟を伴って帰国。萩に城を移した際にも二人は同行し、この地で御用品を焼く窯を開き、萩焼の開祖に。その窯元は現代も続いている。 15

別府竹細工 大分
室町時代から行商用のカゴを作って売っていたが、江戸時代、別府温泉に湯治客が集まるようになったことでザルなどの台所用品を製作。それが土産物として評判を呼び、生産が盛んになったことで産業として発展。 20



豊岡杞柳細工（とよおかきりゅうざいく） 兵庫
起源は１世紀初めに遡るといわれる。北東部を流れる円山川に生えるコリヤナギで編むカゴは、豊岡が城下町になった時期に産業として確立。江戸時代に藩主が奨励したことで全国に豊岡の柳行李が知られるように。 23

備前焼 岡山
日本六古窯の一つ。室町時代末期から茶人に愛され、茶道具として人気を博す。釉薬をつけず、絵付けもしない備前焼の最大の特徴は、焼成時の窯の状態によって色や表面が変化する窯変。一つとして同じ作品はない。 33

阿波和紙 徳島
約1300年前、祭祀を担う忌部（いんべ）氏が麻やコウゾを植えて紙や布を製造し、朝廷に献上していたのが阿波和紙の源とされる。伝統的な和紙の原料、コウゾ、ガンピ、ミツマタの他、麻や竹、桑なども用いられている。 39

京焼・清水焼 京都
794年の平安京の造営とともに京の焼き物の歴史も本格的にスタートし、優れた陶工や名品を次々と輩出してきた。19世紀には頼川（らいせん）が磁器の焼成に成功。明治時代になると諸外国の技術も取り入れ、さらに発展を続ける。 31

京漆器 京都
奈良時代に蒔絵のもとになる技法が生み出され、平安遷都とともに京都に技法が継承。室町時代以降の茶の湯文化の成熟とともに全国に広まった。堅牢さに加えて、優雅で洗練されたデザインもまた、京漆器の特徴だ。 25

京扇子 京都
平安時代初期の木簡から派生。薄いヒノキ板を重ねて綴ったものが「檜扇（ひおうぎ）」、その後、竹と紙でできた「紙扇（かみおうぎ）」が作られ13世紀に中国に輸出。インドを経てヨーロッパに伝わり、それが逆輸入され「絹扇（きぬおうぎ）」が誕生した。 25

越前漆器 福井
起源は６世紀といわれる。産地全体で分業体制が確立され、素地作り、塗り、蒔絵や沈金といった加飾など、工程ごとに専門の職人が作業をする。これにより高い水準で品質を保持。別名・河和田塗とも呼ばれる。 16 32

四日市萬古焼（よっかいちばんこやき） 三重
江戸時代中期に陶芸を趣味とした豪商、沼波弄山（ぬなみろうざん）が窯を開き、自分の作品が永遠に伝わるよう「萬古不易（ばんこふえき）」の印を押したのが名前の由来。そこから産地が形成され、江戸後期に一時衰退したが、明治時代に復興。 16

伊賀焼 三重
７世紀後半から８世紀に誕生。その後、安土桃山時代に伊賀上野の藩主が茶や陶芸に詳しかったことから、茶の湯の陶器として全国に知られる。古琵琶湖層から産出される粘土は耐火性があり、土鍋にもよく使われる。 6

TRADITIONAL CRAFTS OF JAPAN

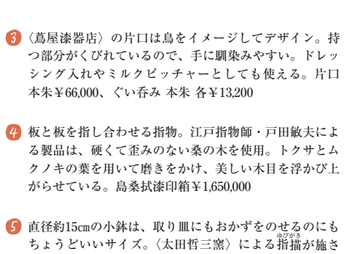
ショップで出合える、伝統的工芸品。

青山・表参道、銀座、中目黒の都内38店舗で展開される伝統的工芸品。
100年以上続く高度な技術で製作された日用品を実際に購入できる、
年に一度の大イベントだ。各ショップに出展される工芸品を一挙公開。

Item _ 輪島塗 石川
Shop _ リアルスタイル 青山店 3

Item _ 江戸指物 東京
Shop _ 伝統工芸 青山スクエア 4

Item _ 江戸切子 東京
Shop _ Whim Gazette 青山店 1



Item _ 小石原焼 福岡
Shop _ VA-VA CLOTHING & VARIETY 5

Item _ 飛騨春慶 岐阜
Shop _ ENCOUNTER Madu Aoyama 2

3 〈葛屋漆器店〉の片口は鳥をイメージしてデザイン。持つ部分がくびれているので、手に馴染みやすい。ドレッシング入れやミルクピッチャーとしても使える。片口本朱￥66,000、ぐい呑み 本朱 各￥13,200

4 板と板を指し合わせる指物。江戸指物師・戸田敏夫による製品は、硬くて歪みのない桑の木を使用。トクサとムクノキの葉を用いて磨きをかけ、美しい木目を浮かび上がらせている。島桑拭漆印箱￥1,650,000

5 直径約15cmの小鉢は、取り皿にもおかずをのせるのにもちょうどいいサイズ。〈太田哲三窯〉による指描(ゆびがき)が施された日常雑器は、日々の食卓を安心してまかせられる。電子レンジ、食洗機対応。五寸鉢 各￥1,980

1 手作業でカッティングを施す〈大場硝子加工所〉のグラス。矢来模様のカットは、液体を入れたときの美しさも格別だ。猪口も出展。右／竹編みオールドグラス ブラック￥36,300、左／竹編みオールドグラス 透き￥27,500

2 木材を曲げて角丸にして、黒い部分には桜の皮を埋め込んでいる。ピクニック時のお弁当を詰めるなど、かしこまった場だけでなく、様々な用途で使える。〈戸沢漆器〉製作。 4 寸銘々皿も出展。隅丸 6 寸三段箱￥24,200

Item _ 笠間焼 茨城
Shop _ TOKYO FANTASTIC 青山店 8

Item _ 伊賀焼 三重
Shop _ ブレインピープル青山 6

Item _ 山中漆器 石川
Shop _ 表参道 門 7

Item _ 四日市萬古焼 三重
Shop _ うつわ大福 10

Item _ 小代焼 熊本
Shop _ It's so easy 9

Item _ 東京銀器 東京
Shop _ 天賞堂 12

Item _ 宮城伝統こけし 宮城
Shop _ 東京鳩居堂 銀座本店 11

6 江戸時代から続く窯元〈土楽〉のもの。ステーキも焼ける土鍋として知られる。飯碗の麦わら手とは縦線の模様のことで、8代目福森道歩による手描き。ご飯を炊く織部釜も出展。黒鍋 6 寸￥5,060～、麦わら手飯碗 ￥4,950

7 7つのサイズが入れ子になる〈守田漆器〉の漆椀。家族で揃えたり、用途で使い分けたり。収納もしやすく使い勝手に優れる。上から／桜 京椀 ￥3,740、￥3,850、￥4,070、￥4,400、￥6,600、￥8,800、￥12,100

8 口縁部に規則的な切れ込みを入れ、先端を尖らせることで大輪の花を連想させる稜花形。3サイズの磁器の鉢は、淡く優しい色合いで、爽やかな食卓を演出する。町田幸(ゆきお)の作。稜花鉢S￥2,530、M￥3,300、L￥4,620

9 マットな質感の白化粧土の湯呑みと、藁を使って岩絵具で模様を入れ、2種類の釉薬を重ねた急須。青小代釉の平鉢も出展。〈一先窯〉製作。つぶ化粧緑釉 急須￥13,200、つぶ化粧白マット釉 丸ゆのみ￥1,980

10 四日市萬古焼に代表される、陶器と磁器の中間になる炻器(せっき)は、多孔質のため余分な成分が吸着し、お茶がおいしくなるといわれる。伝統的なコマ筋の文様が施された〈酔月陶苑〉の急須。窯印 曙黒彩急須￥9,900

11 鳴子こけしの創始者といわれる大沼又五郎より、先祖代々こけし作りを続ける『桜井こけし店』の品。櫻井昭寛作のひいな「華雅」も出展。櫻井昭寛作 又五郎型 9.5寸￥33,000、櫻井尚道作 鏡餅（大）￥10,780

12 純銀玉盃「うめいちりん」に酒を注ぐと、縁起の良い梅の玉が浮かび上がる。梅は「長寿・美・忠誠」の花言葉を持ち、長寿祝いにもぴったり。〈森銀器製作所〉の伝統工芸士の手で製作。 純銀本漆製 淡紅梅 大 ￥59,400

Item ＿ 信州紬 長野
Shop ＿ 銀座ぜん屋 21

Item ＿ 本場大島紬 鹿児島 宮崎、別府竹細工 大分
Shop ＿ HIGASHIYA GINZA 20

Item ＿ 砥部焼 愛媛
Shop ＿ 銀座 伊東屋 本店 24

Item ＿ 置賜紬 山形
Shop ＿ 銀座藤屋 22

Item ＿ 豊岡杞柳細工 兵庫
Shop ＿ 銀座タニザワ本店 23

Item ＿ 京漆器、京扇子、京焼・清水焼 京都
Shop ＿ 青花堂 25

23 コリヤナギの皮を剥ぎ、水洗いして乾燥。長さや厚みを調整しながら編み、玉ネギの皮や栗のイガ、月見草などで染める。膨大な工程を経て製品が完成。月見草染のバッグも出展。玉葱染 椀型飛編 花びら革手￥34,100

24 物語を連想させる絵柄は『銀座 伊東屋』が〈梅山窯〉に別注。これからの季節にぴったりな温かな雰囲気。上から時計回りに／そば猪口 小 窓のある風景、そば猪口 小 冬じたく 各￥2,200、三寸丸皿 イガグリ￥880

25 古い歴史を持つ京都の伝統的工芸品のうち、3つの工芸品が揃う。都を彩ってきた優美な世界を堪能できる。右上から時計回りに／飾り扇 檜扇 源氏車￥165,000、古染付意吹墨貝向付￥25,300、漆酒器 雫￥55,000

20 〈S丶丶〉が各産地とコラボレーションしたオリジナル商品。皿と菓子切りは本場大島紬の伝統である泥染めで染色したもの。手付きのカゴは別府竹細工の技法にて製作。提籃籠 白竹￥48,400、皿、菓子切りともに参考商品

21 草木染の糸による手織り織物を作り出す〈久保田織染工業〉と、『銀座ぜん屋』のコラボレーション品。山菜のぜんまいの綿毛に真綿糸（絹糸）を混ぜて紡いだ糸で織ったぜんまい紬のバッグ。 ボストン型バッグ￥63,800

22 右は米沢の草木で染めた国産絹糸で織り上げた伝統工芸士・齋藤正文によるもの。左は伝統工芸士・長岡正幸によるもので、柄は機織りに使う杼をデザイン。右／米沢紬名古屋帯￥217,800、左／長井紬￥198,000

Item ＿ 萩焼 山口
Shop ＿ ブレインピープル 東急プラザ銀座 15

Item ＿ 駿河竹千筋細工 静岡
Shop ＿ 玉川堂 銀座店 13

Item ＿ 奥会津編み組細工、奥会津昭和からむし織 福島
Shop ＿ 銀座むら田 14

Item ＿ 山形鋳物 山形
Shop ＿ 銀座備長炭ショップ 掌 17

Item ＿ 越前漆器 福井
Shop ＿ 銀座夏野 16

Item ＿ 箱根寄木細工 神奈川
Shop ＿ 博品館 TOY PARK 銀座本店 19

Item ＿ 三州鬼瓦工芸品 愛知
Shop ＿ MATSUZAKI SHOTEN 18

13 静岡で昔から編まれていた、平ヒゴを使った祝い結び、淡路編みを蓋の部分に施した〈みやび行燈製作所〉の菓子器。通常の竹を燃した古代竹を使って、繊細に編み上げている。淡路手付丸菓子器￥44,000

14 奥会津編み組細工の山ぶどう細工は、山ブドウの一枚皮が原材料に。からむしの茎の繊維で織られる奥会津からむし織は、軽くしなやか。ヒロロで編んだ手提も出展。山ぶどう手提￥219,000、袋名古屋帯￥594,000

15 茶の湯の世界から生まれた萩焼の伝統を守りつつ、楽しさも感じられる〈牧野窯〉の品。灰から手作りした釉薬をかけ、薪を使った登り窯で焼成。使うほどに味わいが増していく。キノコ向付 各￥5,390

16 日本の食器デザインの原点ともいえる利休形は、茶聖・千利休がデザインした茶道具の総称。なかでも汁椀はもっとも馴染みが深い。〈土直漆器〉による日常使いしたい漆器だ。欅 利休汁椀 溜・黒・朱 各￥3,850

17 1604年に創業した、山形鋳物の老舗『菊地保寿堂』の既存商品である瓶敷「おりがみ」を器にして、『銀座備長炭ショップ 掌』がオリジナルの備長炭オブジェを制作。全3種類を出展。Origami/black￥7,150

18 鬼瓦製作の技法を生かしたユニークな〈鬼福〉のプロダクト。左右どちらの鼻穴からでもティッシュを取り出せる。他に『MATSUZAKI SHOTEN』オリジナルのいぶし瓦皿も出展。鬼瓦ティッシュケース 睨んだ顔￥22,000

19 異なる色合いの木を薄く削り、貼り合わせていく箱根寄木細工。〈ゆう工房〉による、花びらが舞っているようにも見える麻の葉模様は、日本の伝統柄でもある。名刺入れも出展。鍵 麻の葉 トレー￥8,800

Item ＿備前焼 岡山
Shop ＿ブレインビーブル 中目黒 33

Item ＿久留米絣 福岡
Shop ＿tokyobike 中目黒店 34

Item ＿越前漆器 福井
Shop ＿YAECA APARTMENT STORE 32

32 応量器（おうりょうき）とは禅宗の修行僧が使用する食器で、6枚の容器が入れ子状に重ねられる。箸や匙、布を縫い付けて粥の汁を舐めとるための刷（はけ）、水板などもセットに。〈吉田屋漆器〉製作。応量器￥132,000

33 たっぷりと入る大きめのマグカップと、手のひらサイズのドリッパーは〈鳴瀧窯〉によるもの。デザートプレートも出展。右／マグカップ￥3,850、左／コーヒー&ティードリッパー「Tear Drip」￥6,600

34 久留米絣の技法を用いて、現代のファッションに合う商品を作る〈オカモト商店〉のバッグ。上質な木綿生地は耐久性にも優れている。草木染ブラウスと藍染ジャケットも出展。ショルダーバッグ￥25,300

35 すべての工程を手作業で行う〈桂樹舎〉の型染め和紙。角座は薄型の敷物。使い込むほどに革のような風合いになる。撥水加工を施しているので汚れにくく、濡れにくい。ブックカバーとはがき箱も出展。角座 各￥7,700

36 〈翁明窯元（おうめいかまもと）〉による飛び鉋の飯碗と〈鬼丸豊喜窯（おにまるとよきがま）〉による刷毛目の皿。軽くて丈夫な、ふだん使いにストレスのない器たち。〈翁明窯元〉のマグカップも出展。飯碗 大 ツートン マット￥1,980、7寸皿（内白ハケ）￥2,530

37 他の器と組み合わせても相性のいい〈李荘窯〉が製作する細い縞模様の器。白磁ブラストは極小の粉を吹き付けて加工し、光沢を抑えている。右／白磁ブラスト 縞ボール（S）サンプル、左／K黒C釉 縞ボール（S）￥4,400

38 〈Awagami Factory〉による御朱印帳は、天然色料で職人が手染めした表紙と、中紙にはプレーンな阿波和紙を使用。モザイクアートパネル＋藍表面染めも出展。藍染御朱印帳（大）右／殺染め、左／ぼかし 各￥2,640

Item ＿小石原焼 福岡
Shop ＿ROOTS to BRANCHES 36

Item ＿越中和紙 富山
Shop ＿dessin 35

Item ＿阿波和紙 徳島
Shop ＿D_MALL 東京店 38

Item ＿伊万里・有田焼 佐賀
Shop ＿iki 中目黒路面店 37

Item ＿江戸べっ甲 東京
Shop ＿漆器 山田平安堂 27

Item ＿江戸からかみ 東京
Shop ＿教文館 26

Item ＿益子焼 栃木
Shop ＿BIN 30

Item ＿博多織 福岡
Shop ＿銀座松屋 28

Item ＿箱根寄木細工 神奈川
Shop ＿MIGRATORY 29

Item ＿京焼・清水焼 京都
Shop ＿the GARDEN 31

29 木を薄く削って貼り付ける従来の手法ではなく、寄木そのままの状態から製品を削り出す「無垢作り」をする金指勝悦による箱根寄木細工。右上から時計回りに／お盆 ￥30,800、6.5寸盛皿￥17,600、5.5寸平皿￥15,950

30 淡い色合いが美しい12角と10角のプレートは佐々木康弘によるもの。偶然性が高く、同じ景色の再現ができないマーブルは、料理の盛り付けの幅を広げてくれる。10角プレート￥7,150、ドデカゴンプレート￥9,920

31 ピンを壁に刺してくっつけるだけ。〈TOKINOHA〉による花器は京焼・清水焼の新しい形だ。花器とドライフラワーがセットに。全3種類。右／TUKU/TUTU/SORA、左／TUKU/TUTU/SHIRO 各￥4,730

26 〈東京松屋〉の江戸からかみは、襖や屏風に使われるだけでなく、日用品にも花を添える。水引は水引作家の松本道子が、それぞれの柄との相性を考えた結びをデザイン。グリーティングカードも出展。ご祝儀袋 各￥1,320

27 蓋とスプーンにべっ甲を使った、宝石のように美しい〈べっ甲イソガイ〉の品。さっと洗えるコーティング加工が施されているので、清潔に使える。ネックレスとイヤリングも出展。べっ甲シュガーポット￥41,800

28 帯の締めやすさに定評のある博多織は、現代の着物に合うデザイン。男帯（原田織物）も出展。右／〈筑前織物〉紋八寸名古屋帯 波細工 C-2 ￥198,000、左／〈協和織工場〉紋八寸名古屋帯 水彩 花 K-1 ￥96,800

Information

期間は10月29日（金）～11月11日（木）。参加ショップの目印は、オリジナルの藍染フラッグ。工芸品がもらえるくじ引きにチャレンジできるスタンプ集めや、ものづくり体験、実演ワークショップの開催など、内容も盛りだくさんだ。中目黒エリアでは『tokyobike 中目黒店』による無料レンタサイクルも実施される。詳細は公式サイトhttps://jtcw.jpで。

JAPAN TRADITIONAL CRAFTS WEEK 2021

産地に行かないとふだんはなかなか触れられない伝統的工芸品に出合えるイベント『ジャパン トラディショナル クラフツ ウィーク 2021』が今年も開催される。８回目となる今回は青山・表参道、銀座、中目黒の３エリア38ショップが参加し、回遊性もアップ。メイン会場の『伝統工芸 青山スクエア』では工芸品を使ったインテリアシーンを提案する。散歩するのも楽しい爽やかな季節。一生、大切にしたくなる日用品を探しに出かけたい。

Shops

中目黒

- 29 MIGRATORY
  箱根寄木細工
- 30 BIN
  益子焼
- 31 the GARDEN
  京焼・清水焼
- 32 YAECA APARTMENT STORE
  越前漆器
- 33 ブレインピープル 中目黒
  備前焼
- 34 tokyobike 中目黒店
  久留米絣
- 35 dessin
  越中和紙
- 36 ROOTS to BRANCHES
  小石原焼
- 37 iki 中目黒路面店
  伊万里・有田焼
- 38 D_MALL 東京店
  阿波和紙

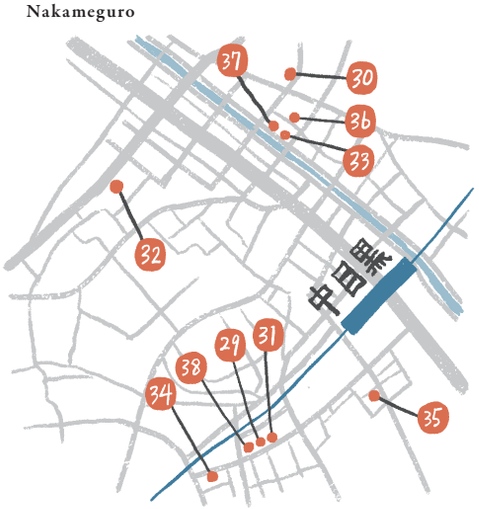
銀座

- 20 HIGASHIYA GINZA
  本場大島紬、別府竹細工
- 21 銀座ぜん屋
  信州紬
- 22 銀座藤屋
  置賜紬
- 23 銀座タニザワ本店
  豊岡杞柳細工
- 24 銀座 伊東屋 本店
  砥部焼
- 25 青花堂
  京漆器、京扇子
- 26 教文館
  江戸からかみ
- 27 漆器 山田平安堂
  江戸べっ甲
- 28 銀座松屋
  博多織
- 11 東京鳩居堂 銀座本店
  宮城伝統こけし
- 12 天賞堂
  東京銀器
- 13 玉川堂 銀座店
  駿河竹千筋細工
- 14 銀座むら田
  奥会津編み組細工、奥会津昭和からむし織
- 15 ブレインピープル 東急プラザ銀座
  萩焼
- 16 銀座夏野
  越前漆器
- 17 銀座備長炭ショップ 掌
  山形鋳物
- 18 MATSUZAKI SHOTEN
  三州鬼瓦工芸品
- 19 博品館 TOY PARK 銀座本店
  箱根寄木細工

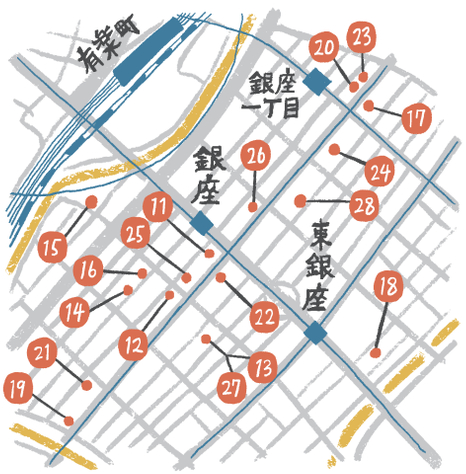
青山・表参道

- 1 Whim Gazette 青山店
  江戸切子
- 2 ENCOUNTER Madu Aoyama
  飛騨春慶
- 3 リアルスタイル 青山店
  輪島塗
- 4 伝統工芸 青山スクエア
  江戸指物
- 5 VA-VA CLOTHING & VARIETY
  小石原焼
- 6 ブレインピープル青山
  伊賀焼
- 7 表参道 門
  山中漆器
- 8 TOKYO FANTASTIC 青山店
  笠間焼
- 9 It's so easy
  小代焼
- 10 うつわ大福
  四日市萬古焼

Nakameguro



Ginza



Aoyama · Omotesando